(大正三年第三種郵便物認可)
昭和十一年十月二十四日　磐城新聞　(木曜日)　第四千四百五十九號　[一]

夕刊
磐城新聞
十月二十三日發行
(日曜祭日翌日休刊)

美友會を去る私
高瀬勝男

私が美友會に關係した頃は十六、七才?の坊主頭、創立當時より今日迄頭の禿げかゝつた三十男になつてしまつた。先輩、特に植竹先生、近藤先生、青山さんには御世話になつて育てられ、敎へられ、隨分御面倒を見て戴きました

藝術とはなんて考へ始めたのは、生意氣に二十才頃でした。日本畫から油繪に轉向し、段々理窟を持つ樣になつてきて危げながら會員達と伍して饒舌る厚顏をつくつてきました

美友會今日迄の會員として無事に過ぎたわからずやの勝手を今更迄まつて脫會するに臨んで、會の有難會員皆樣の御援護の賜としらじらしく謂ふのもおかしなものだが、まつたく感謝の外はありません。去る理由は折角よい會員のなか常識も圓滿に出來てゐない駄々息子は親の顏に泥を塗らないうちにと駄々息子なりの便法で一村家出仕り候と立派な永い傳統をもつこの會から身を引く譯なのです袂別の哀哭を酒に醉つてわすれる。當男は退會後を一層の自己批評のなかに藝術する、會員であつてもの不思議が湧くでしようかそこが駄々息子のわがまゝ許さしめよ人々と、これからは自由な立場から同じ勉強してる人達の作品を見直して懸命にやる、懶ち勝の近頃先輩、後藤の仕事に接してもつともつと、本當の勉強をしなければ辱かしい、暫らく會の關係を斷つて一つかりした作品を積んで行きたい。一歲一歲とされたけ自信のある作品か出來るか困難な推測だが、自由になる立場だけでもひろびろの大があゝ樣だ、石城の代表的繪畫團体美友會々員の誇りが己にとつて窮屈な体面になつた美友會を去るに都合上とのみ脫會屆を認め提出してある。わかれ悲しくしても左右しなければともに飢ゑる定石のとき一つは彼をいかし、一つは己をいかす、潔ぎよい自決の道をちようど美友會と己にとつた迄だ

潮聲硯靜抄帳
例會席上再選

秋燈

灯火親し枕ならべて兄弟　武門
灯火親し飽くこと知らず俳句論
子規全集
灯火親し病臥漫錄ひろき讀む
ラジオ切れば讀書の聲や秋灯　枯萍
秋灯火殘りのページ數へつつ
讀み疲れふとラジオ聞く秋灯

ほゑろあらし
井上寺寬風

ほゑろあらし
あがれたつまき
旅路の空は
つゝがありてこそ
面白きものか
君が胸にいだかれつゝ
平和になれた心を恐ひきり
驚かす
夢を見たい
失望のどん底に落ちこんだ
夢を見て……

示友
珠宴　小野務平

如何蝸角闘爭頻
忘了雷間類與卒
歲々回春易若錦
依然我是守株人

應募規定

□歌詞　郷土の唄としてローカルカラーの豐かなるもの
□用紙　四百字詰半紙判原稿用紙
□篇數　一人一篇限りとす
□姓名　住所姓名、或は筆名、は封書のみに自署し原稿には絕對に附記せざること
□宛名　平町田町一六磐城新聞社「七夕祭」歌詞募集係
□締切　十一月末日
□發表　十一月下旬

平音頭「七夕祭」歌詞再募集

賞金貳拾圓(入選一篇)
賞金拾圓(佳作五選)

選者(イロハ順)
新妻久滿夫
小山田滋
渡邊何鳴
高久晩霞
白木英尾

版權其他一切は本社所有となす。

最近の大衆文學
下
ケイ・ケイ生

つまり讀者大衆は慰安のため、娯樂として、刺も、或は性慾的に、或は激を發散するため、或ひはまた、殺人、鬪爭等の壯快味或は笑つて、空虛にならうとするため、等々に限られてゐる。そして讀んでゐる瞬間々々は、輕く空虛になることを認識じゐる

斯ういふ、『制約』のもとにありながら現在の大衆文學の惱みは、何箇かの進路を懸命に求めてゐる

その意味の進出をも、早…がすことの出來ないのは事家である

大佛次郎、長谷川伸、吉川英治などの知られた作家の、最近の作品に、その表現技巧が、獨特の境地から純文學的になりつゝあるが題材の取扱ひでも、單なる興味中心では、がまんしきれなくなつてゐるのがよくわかるけれども、結局はそこから脫却し得られないでゐる。が、たとへば、長谷川伸の『古河善兵衛重吉』や、『改造』の一月號に出た吉川英治の『脚』などには單に娯樂的でない要素を多分にあらはしてゐる

大衆文學の畑の新作家と目されるやうな人々、海音寺潮五郎、番伸二、濱本浩次邦三、などの作品は、人生味』と云ふ方面を、純文學的に解剖して、獨自の境地を開拓しようといふ努力が見え、また新作家ではないが、邦枝完二の精緒的、文學的、作品の完成への努力が見え、その他、表現の巧の文學的努力に、陸直次郎の『盆枯れ』などを見のがされない。だが、大衆文學があまりに純文學的になると、インテリ化の危險があるから、そのために林不忘の『新講談』の發生は必然的なものである

その日
10月24日

△西郷隆盛征韓論に敗れ職を辭す(明治六)△神風連の變起る(同九)△臺灣縱貫鐵道全通(同四三)△濟通り凶作救濟鐵道枕木十萬本買上げ決定(昭和九)

若い女の眼鏡をかけた

小說　誰が殺したか (154)
水谷準作　龍造寺勝畫

第三の殺人 (三十七)

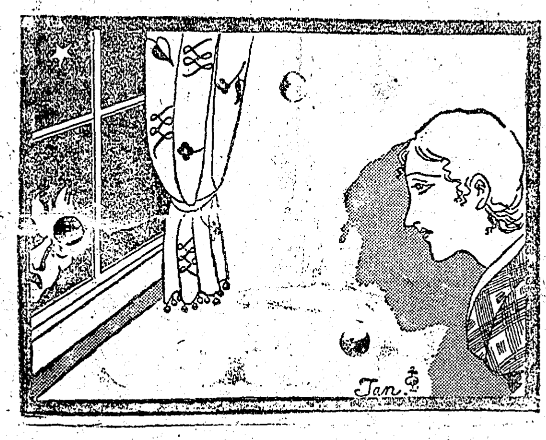
それは先刻、獅子內かいかにも何事か決心したやうに吹きを洩らしたのでも想像かつくやうな氣がした

『君、この男を、柱へ縛りつけるんだ。手を貸たまへ!』

『何者です、こやつは?』

『愛すべき赤城暗殺犯人だよ。──脚の方はいゝだらう、これで半時間は持たらうから』

富士野淳一を後手に柱へくゝりつけて赤城は靜かに云つた



『暫くぢつとしてゐるんだ赤城を恐れる事はないから神妙に待つてゐる事だ。さあ三田村君大急ぎだ』

先に立つて、赤城は飛ぶやうに階段を驅降て行つたあとに殘された淳一は、半ば夢見るやうな氣持で茫然たるものがあつた。赤城のやりかたが彼に解らない謎を與へたのだ。これまで自分自身に對しても半信半疑であた殺人の疑ひが、これで見ると赤城は氣にさへかけてゐないやうではないか

杉野前支那公使未亡人春枝は小間使の弓子やその他のものを別室に退げて獨り居間で物思ひに沈んでゐた胸の中がうづくやうな春のる日冷たくみねるが。まして秋はきらりこしてうすらさむい背である。何がなしに彼女は深い吐息を洩らして寢むには少し時間の早い一刻を讀書でまぎらはさうとしてか、卓子の上に擴げてあつた書物に手を伸ばした

こつ〱。と何處かで物音がした未亡人は顏を上げたけれど、別に氣にもせず再び書物に眼を落さうとした

こつ〱。今度は明確に硝子を拳で打つ音だ。はつとして闇淡い庭先に顏を向けた刹那

『あゝ!』と絞るやうな驚きの聲が未亡人の咽喉の奧から聞えた窓硝子にぴつたり寄せられた男の顏獅子內のらん〱たる眼だ。だが意外、彼女は身を翻へしも、助けを呼ばうともせぬ、却つていそ〱と窓に驅よつて。低いながら熱の籠つた激しい調子で

『獅子內さん』と呼んだ

『開けて下さい』

急がしく獅子內の拳は硝子を叩いた

『はい。今すぐ』

春枝未亡人は卸した差込錠を拔いて靜かに窓を開いた獅子內の身體が伸び上つて彼は忽ち部屋に躍り込んだ

『お待ちして居りました』

不思議なこともあればあるものだ。自分の夫を殺害した當人に向つて春枝未亡人はまるで生娘のやうに息をはずませながら。身を投げようとするのだつた

『駄目です。こゝまで私は追はれて來たんです。ぐず〱してはゐられません』

『誰!又、あの憎らしい赤城とか云ふ探偵?』

『さうです。たうとう隱れ家を嗅つけてしまつた。昨日やつと向ひの空屋を見つけて、これから毎日あなたに逢へるかと思つたらもう今夜やつてきました』

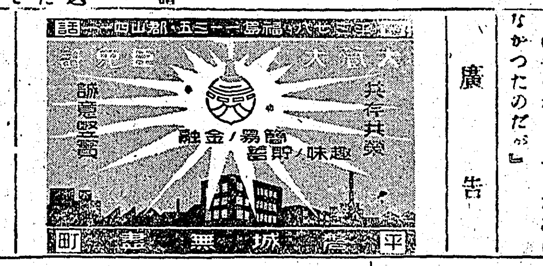
『あなたを警官の手になんど渡してなるもんですか。いゝえ誰が來ようとも、わたしは、この家の中には一歩も入れはしませんわ』

『何を馬鹿な事を云ふんです。私はあなたの主人を殺した罪犯人ですよ。警官がくるのを拒めばあなたも同罪だ』

『構ひませんわ、二人で杉野を殺したやうなものですもの』

『それはさうです。二人の戀の最中に杉野さんが躍り込んで來さへしなければ私があの人の首にこの手を、この手をかけるやうな事はなかつたのだが』

廣告



吉田眼科病院

入院隨意(宿泊の便あり)
外科專門
X光線科
平南町
上田醫院
病室完備
(電話一二九)

産科 婦人科 外科 藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 內木宗八
藥劑師 立番彌一
入院隨意 病室完備
平町新川町十九番地
木村病院
電話一六四番

お醬油は……ヤマフル
味噌醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
鹽 屋
山崎合名會社
福島縣平町
電話(營業部一〇番 本店二七番)
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

內臟外科一般
外科花柳病科
(入院隨意)
平町六丁目(橋際)
木村外科醫院
電話三〇九

現代的
修得短期 經費低廉
紫山流盤景教授
一、材料の具が安く何回でも使はれる。
一、練習二三回の初心者の作品でも直に床の間を飾るに充分である。
一、一週間一回六ヶ月で修業出來る。
一、繪畫の素養全く無き老若男女どなたにも習得出來る。
紫山流盤景師範 平町白銀町 高橋光山
電話六三八番

開院
産科 婦人科 五十嵐醫院
平町新川町一二
醫學博士 五十嵐雄二
電話三七〇番
(入院應需)

急告
豆タク!豆タク!豆タク!の出現
秋のドライヴに、商用に
迅速 低廉
市內三〇錢
市外地 普通料金四割引
鈴木自動車豆タク部
四丁目 電話二一七

內臟外科 外科一般 花柳病科
入院隨意 目次の便あり
平町田町赤心室病院跡(電話四七五番)
安齊外科醫院

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
和洋銅物 金物問屋
㊇釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九八番
振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は㊇の生命なり

福祿ストーブ福引
景品付大賣出し
◇景品總額五萬圓◇
期間 昭和十一年九月廿五日ヨリ
同 十二月二十日マデ
賣出規定
福引券……ストーブ御買上ノ方ニ左ノ割合ニテ進呈致シマス。
フクロクストーブ一號(大衆(中型)寶(大、ト)) 各一本ニ付一枚
フクロクストーブ二號(大衆(大型)) 各一本ニ付二枚
フクロクストーブ三號 各一本ニ付三枚
フクロクストーブ四號 各一本ニ付四枚
抽籤發表 昭和十一年十二月十一日東京朝日新聞ニ發表致シマス。
景品引換 昭和十一年十二月十五日ヨリ翌年一月十五日迄福引券引換ニ最寄ノ代理店ニテ景品ト引換致シマス。
景品 福引券一千枚ヲ以テ一組トシ當選ノ方ヘ左ノ景品ヲ差上ゲ
一等 百圓 一本
二等 參拾圓 二本
三等 拾圓 三本
四等 五圓 四本
等外 特製福祿便箋
(空籤ナシ)
福祿ストーブ販賣代理店
㊇ 平町五丁目 釜屋商店
㋡ 平驛前 阿部石炭商店

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
入院隨時
郡山市外大槻村針生
郡山驛より約三十丁
安積中學より約五丁
院長醫學士 金森五郎
郡山腦病院
電話九二五番

流行ノ下駄ト草履ハ!
ドコヨリ安イ
南町 三井ハキモノ店
(小僧さん入用)
電話一八二番

各方面を整備して 新時代の太平町現出

逐日伸び行く道路鋪裝に次いで 今度は縣社下の氾濫禍除去

平町縣社下附近は下水道の不完備から從來降雨毎に泥濘禍に惱されてゐるので町では地元からの陳情により今年度事業として工費九千八百圓を投じ縣社下から南に紺屋町、材木町を經て新川町に拔ける延長八十二間の水管（三呎ヒューム管）埋設工事を行ふ事になり研古紺屋町、材木町、堂の前關係地元負擔金一千百圓も纏つたので明後二十五日工事材料着荷次第着工する事になつたと

尚平町の鋪裝工事は漸次範圍を廣め田町役場通り（本社前延長六十四間工費二千圓）を終ね白菊酒店角から搔綿小路方面及び西村藥局傍も此程着工更にこの工事の竣功を待つてマルトモ横の新道鋪裝を施行、尚幅員の廣い關係から役場前大田町通りの車道鋪裝、南町下水溝完備後の鋪裝實現等町當局が目下計劃中である

變る町の姿

日毎彩られ行く 近代的都市美

その昔參覲交代の大名行列なら、廣重の描いた古雅な松並木に馬糞の點在する凸凹の道路も似つかはしいが、輕燕風を受けて斜なり……と云つた流線型の高級自動車がフツ飛ぶ現代には斷じて鋪裝道路であり、立体的の建物で無くては場景として板に着かない

○

ローラー自動車や碎石機や、本町の地表は日毎ダイナミックな音響と共に完膚なく舊時代の皮を剝ぎ、其代りに輝かしい近代色が植皮される、斯くして平町鋪裝は幹線から枝線へ、と伸びて底止する處を知らぬかたち

○

ビザンチン、ルネッサンス。そうした贅澤は云はぬとしても、宏濶新川畔仲町の一廓を劃つて懸案公會堂の實現は愈々時の問題となつたし第四小學や町營グラウンドの物になるのも遠くはない。本町の黎明はいま市制施行の地平線から刻々紫に明け放れて來る

郡下養兎調

陸軍省へ四萬枚

例年陸軍省で購入する兎毛皮は今年も弗々その季節になつたので石城郡農會で調査した今年の飼育數は約五萬五千匹（飼育戸數一萬四千九十七戸）中約四萬枚を賣却する事になつた

昨年も郡農會斡旋の下に大量共同販賣を行つたで一枚九十錢程度、近く福島で行ふの、同農會內田書記が出張する筈

救凶協議會

町村長支會開催

凶作の二の舞にぶちのめされた郡內の貧弱村救濟に關しては過般石城町村長支會總會に於いて開かれた縣下町村支會長會議に種々協議したが、支會ではこれに基き更に來る三十日午前十時から本町會議室に總會を開き當面の對策として政府米拂下其他の實施事項を協議する事になつた、尚同總會で入營者附添の抽籤を行ふと

民衆の—保護者を優遇せよ

當路に陳情すべく あす平警親會で協議

平署親會では警察官待遇改善のため田村、白河郡山各警親會と提携目下猛運動を起してゐるが二十四日午前十時から平署會議室に臨時役員會を開き改善要項たる

一、警察署長には凡て警部以上を配すること

二、警察部各課長は勿論一郡及これと區域を同じうする地區の管轄警察署長は凡て警視を配すること

三、巡査を判任官に昇格すること

に關し協議、郡內關係三百餘名の調印を取纏め優遇請願書を首相、內相、貴・衆兩院に提出する事となつた

愛婦資金造成收支

愛國婦人會が行つたすわらじ劇團の收支は（收入）七百五十三圓三十錢（支出）四百五十一圓十五錢／純益三百二圓十五錢は明春花の四月松ケ岡で行ふ第一回總會（會員約一千名）の費用に當てると

炭鑛に吸はれて 肥滿出來ぬ平町

國調から觀た營養振り

平町の人口動態はどうか、今回の國調による概數は二萬五千七百五十名（男一二、八一一名、女一二、九三九名戸數不詳）で前回（昭和五年）の二萬四千九百九十九名（男一二、五二四、女一二、四七五名）に比し七百五十一名の增加で一年毎の增加數百五十名強に當るが大正十四年度の第二回（合計二萬二千四百七十八名男一一、三四九名女一一、一二九名）から昭和五年迄の增加數二千五百二十一名（一年旬五〇四名）に比較すれば約三分の一にも滿たない、躍進途上にある大平町がなぜこんな心細い現象を示したか？

町當局の語る處によると地方炭界の好況により一昨年頃から續々平町の勞働者が內鄉、好間、湯本の炭礦地帶に入り込んだ關係からで、これがため現在平町で勞働者の狩り出しは非常に困難を來して居り、これに反し內鄉村の如きは今回の調査で約三萬人、前回の昭和五年に比し約二千名といふ物凄い增加を振り示してゐると云ふ

江名豊間國調結果

此程の國勢調査による江名町の人口は六千九百二十名で前回（昭和五年度）より約千五百名增加、豐間は三千八百五十名（前回對比百五十名增）である

市制調査會

平町市制施行調査會は過般の先進地視察に基き來月三日午後一時から委員會を開き意見交換の上實施方針を樹立すると

足手纏ひの幼兒 百二十餘名を世話

好評の江名町隣保館

過般開館式を擧げた江名町隣保館は館長に大竹辰雄氏就任、姆姆三名を置き滿四才未滿の幼兒百二十餘名を收容好成績を擧げてゐるが今後農繁季に向ふにつれ附近民何れも大助かりで收容者も漸次增加するであらう

藝妓屋品澤に 四十年前の認可書

良くも保存した老女将

平町に於ける藝妓屋として老鋪品澤が今回同町內の技藝稽古所へ移轉屆出するに就てさきの許可書（當時は認可制度）が必要となつた、何せ四十年近い齡の事であり、當時明眸皓齒の明治中葉の美人として一代の嬌名を謳はれたアクちやんが昨今の狀態―風化（？）した今日とて果してあるかどうか頗る疑はしい乍らも係からその提出方を申し渡した處、言下に『ハイ〳〵』と許り差出したのが紙魚の痕も點々たる蒟蒻判刷りの文字も薄れた次の一札。良くまあ保存して置いたもの だ――と突然國寶級の發見みたいに今や表彰話さへ出て居ると

城令、第三七〇八號
石城郡平町田町三十四番地寄留
品澤アク
明治三十二年六月二十一日屆藝妓屋引續キ營業ノ件認可ス
明治三十二年七月一日
石城警察署長
警部　吉村成範㊞

・。・。米販統制協議

縣販賣購買組合主催の石城双葉二郡聯合米販賣統制會を二十八日午前十時から平團体事務所に開く

四年餘の冤罪に 要償七千四百圓

更生の長谷川氏から申立

千駄ケ谷のバス商殺し事件の長谷川繁（三八）は二十一日をもつて無罪確定したが同人は檢事局をはじめ豫審廷でも公判廷でも終始否認で押通し一回も自白してゐないので當然刑事補償法の適用を受けるわけで二十二日同君は塚崎辯護士の手を通じて無罪を言渡した東京控訴院杉浦裁判長宛に刑事補償の申立を行つた、その申立によると同君が起訴收容されたのは去る昭和六年九月二十八日で本月十八日釋放されるまで冤罪による拘禁千四百八十一日、しかも殺人の汚名を着せられ一審では死刑言渡しといふ苦痛まで味はされ、獄中で自殺を企てた事もあり、今日尚腦神經衰弱である、又本人直接の關係ではないがこの爲に父親の欽太郎は入山炭礦、また兄政氏は飯野小學校長をいづれも退いてゐる事情をも考慮して最高額の補償（一日五圓）を與へられたいといふのであり、若しこの通り認められれば補償額は七千四百五圓となり我國刑事補償法實施以來最高額となるわけである

沈沒船拂下げ

時化の犧牲となつた二隻 引揚失敗に終る

去月二十六日、郡內を襲ふた大時化に遭難、機關長以下數名の犧牲者を出して沈沒した小名濱築港浚渫船海北、敦賀丸の引揚作業は同事務所で終に失敗に終つたのでそのまゝ敦賀丸は一萬二千餘圓、海北丸は約六千圓で某古鐵商に拂下げる事に內定、これに代るべき浚渫船は近く鹽釜から第六海北丸が來港一月から着手し十二年度一杯に仕上げる事になつたと

夏井消防表彰內申

夏井村消防組は過般の飛行機墜落や村道改修に際し獻身的な努力を拂つた等その實績が少くないので此の功に酬ゆるため同村駐在巡査から二十二日平署に金馬簾の授與方を具申

一網に六名

內鄉村高坂機械手河野間（三五）方で今二十三日午前一時頃同人外左記五名が車座で賭博開張中を平署員に一網打盡

同村採炭夫金野賢治郎（三〇）鮮魚商鶯谷彌七（四〇）採炭夫坂本與治郎（三八）支柱夫高橋由治郎（三三）河野方無職赤堀七郎（三六）

赤飯と煮しめに中る

苦みぬいた一家四名中 九歳の孫終に絶命

小名濱町橋本一四山野邊ハル（六〇）方で此程の氏神祭に赤飯とガンモドキ其他の煮しめを喰つた處一家四名が何れも下痢、吐瀉を催し附近醫師の手當てを受けてゐたがハルの孫の小學二年生仲本周一（九）君は終に二十二日朝死亡、目下小名濱派出所で詳細取調中である

○。○。○。實教振興研究會。

郡第三區の第六回實業教育振興研究會は今二十三日午前八時から好間尋高校で開催、各校農業指導員が參集して研究發表等あり午後同村內の農業經營實際狀況の視察を行つた

斷水

平町紺屋町地內鐵管工事の爲鍛冶町一、二、三丁目は二十三日午後九時より明朝六時迄斷水

○。○。○。逃走酌婦發見

湯本町大字湯本字向田料理業佐藤イハ方から前借を踏倒して逃走した酌婦神奈川縣生れ府川サヨ（三二）は赤井村字三島大工職八木初太郎方に潛伏中發見連れ戻された

郡教育部會秋季總集會

來る二十一日平第一校を變更して同第二校講堂で開催、講師には東京高等師範校教官山田榮氏『題未定』が決定した

○。○。○。農林省技手檢査

農林省佐々木技手は二十七日來平二十八日、鮫川二十九日小川兩江筋既設工事の檢査を行ひ富岡方面へ向ふ

○。○。○。過傷運公に罰金

双葉郡上岡村本岡字本町大和田新三郎方自動車運轉手四倉町仲町生れ根本倉吉（三六）は七月二十五日午後三時頃トラックを運轉、久ノ濱町金ケ沢字原見坂地內國道を疾走中、不注意からリヤカー付自轉車に乘つて來た平町出身新妻履物店方遠藤鶴壽（二七）を跳飛ばし全治要九ケ月の複雜骨折を與へ此程平區より略式命令で罰金五十圓に處された

石城梨移出減少

惡天候に祟られて 半數三萬貫の見込

名產蜂屋柿の共同出荷に關し石城郡農會では既報の如く二十二日午前一時から平團体事務所に農會役員を招き協議した

出荷は大体來月上旬、移出高は昨年の一萬箱六萬貫に比し惡天候からせい〴〵五千箱三萬貫位

不順天候による品質低下から品不足にも拘らず昨年同額の一箱三圓位であらうと

小春日の櫻ケ岡に バザーと音樂會

豫想さるる當日の盛況

磐城高女の第三回のバザーは愈々來る二十七、八の兩日に迫つたので目下全校が大童となつて準備中であるが、セーターその他各種の裁縫手藝部が控室を初め六教室を占め、藥品部は控室の一部に陣取り化粧品その他を同校生徒が實用化學の腕を見せ、食堂は作法室、裁縫室を占領して、すし、だんご、羊羹、いちご水等日頃の出來榮を現すといふ法、その外二十七日には雨天体操場で左記近在小學兒童を併せ音樂會を催し一般に公開する、なほ右音樂は例年の評判から今年は最も通俗的なものを選んだ

ピアノ連奏『軍隊行進曲』シユーベルト曲（一年）根本つね子、箭崎幸子　齋唱『飛行機』犬童球溪詩ドイツ民謠　獨唱『晩秋』三木露風詞成田爲三曲愚目喜久子　齋唱『我が國』犬童球溪詞カスタネク曲　同『希望』八波則吉詞船橋榮吉曲　同『モツァルトの子守唄』水田詩仙詞　同『學びの力』生田春月詞サルウァン曲　二部合唱『燈台』田和寬一郎シ德増喜三曲（二年）獨唱『磯の日向』橋本逸雄シ於島精曲桐谷つね　二部合唱『二日月』青木歌子シ本居長世曲　同『冬の時雨』岡本歌子シ室崎琴月曲　ピアノ獨奏『ワォーターロー戰勝曲』アンダーワン曲大和田智惠子　二部合唱『霜の朝』青木歌子シ片山頴太郎曲　獨唱『ふなうた』成田爲三曲（三年）大塚つね　三部合唱『ハワイの海』ハワイ民謠德山璉詞編曲　同『暖爐の前』青木歌子詞井上武士曲　同『川波』川路柳江詞ドボザーク曲　同『高原の秋』青木歌子詞ト總覽一曲　ピアノ獨奏『華麗なるワルツ』ショパン曲作品十八番田中敬諭　二部合唱『日本讃歌』田中瓊德詞井上武士曲四年有志　同『舟遊び』犬童球溪詞作曲者不詳有志　同『愛の女神』葛卷松枝詞山田耕作曲音樂部委員　ピアノ獨奏『ソナチネ九番』四年草野清子　獨唱『子守唄』大中寅二曲草野清子

二十四日（霜降）（小名濱測候所調査）
日出　五、五〇　月出前　二、四四
日沒　四、五二　月沒後　二、五六
滿潮前　二、〇五　干潮前　八、三〇
後　二、一五　後　九、一五

產科　婦人科　花柳病科
午前宅診　午後往診　入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）　電話五五九番

夜間診療
胃腸性病專門
內科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
（見習看護婦募）
松村胃腸性病科醫院
（平町田町　電話一〇十番）

洋服は信用堂へ
合着及び冬服は當店獨得のスタイルにて各種取揃へました。是非御一覽下さい。
黒小倉學服　¥0.90ヨリ　小學水兵服　¥1.60ヨリ
黒小倉中學用　¥2.90ヨリ　ベビー服　¥2.50ヨリ
サージ立衿上下　¥7.00ヨリ　男兒幼年服　¥2.00ヨリ
背廣三ッ揃　¥13.00　文化コート　¥0.80ヨリ
レンコート　6.00　スカート　チャンパー　各種
外に各種作業服ズボン
平町三丁目　電話六一三
信用堂洋服店

毛糸編物講習會
毎日午前九時から午後三時まで
手編、器械編何でも御教へ致します
會費一日二十錢
平町田町　ハシモトヤ糸店　電十四番

舊九月二十七日　木曜　癸酉　大安　閉　斗宿　新十月二十四日

易判定鑑　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　業務榮えて利益多大なる日證書捺印注意▲二黒　活躍を要する日なれどたんせいに陷らぬ樣注意▲三碧　內にかへりみ外に慾しめ思慮を失はざれば平安▲四緑　齊狀を繼續して他事に心移りを生ず可らず▲五黄　心迷ひを起さゞれば物事自らのび行くべし▲六白　獨斷妄擧は大に戒むべき日定業に勉むべし▲七赤　好機到來し大に發奮すべき日初心を貫かん▲八白　運氣優勢にて大事も需せらる吉慶大に加る▲九紫　攻むるを知りて守るを忘るればさいくわばせまる